

令和2年度
学校関係者評価書

《実施日：令和3年3月3日》

〈専〉京都伝統工芸大学校

学校関係者評価委員会開催の記録

1. 開催日時 令和3年3月3日（木）午後3時00分～午後4時10分
2. 開催場所 京都伝統工芸館 8階会議室
3. 出席者 松本 一男 京都府南丹教育局長
杉島 敬志 放送大学京都学習センター 所長
三田 康明 生田グローバル（株）顧問
文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」
グローバル型企画評価部会委員
兼松 俊明 京都漆器工芸協同組合 理事長
遠藤 公誉 卒業生
玉村 嘉章 卒業生
田中 宏明 卒業生田中めぐみさんの保護者

（学校関係者）工藤教務部長 近藤事務部長

4. 学校関係者評価委員会で検討された事項

検討事項				学校関係者の評価・提言
基準	項目	総括	自己評価	
学校運営	事業計画	学校の運営方針を反映した事業計画を毎年度作成。各部署で目標を達成するよう定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。		適正に運営されている。
教育活動	目標の設定	教育課程編成に当たり、卒業生内定企業から意見聴取し、教育課程に反映させている。各学科の教育目標、育成人材像をできるだけ具体的に示している。		適正に運営されている。
	教育方法・評価等	体系的にステップアップできる教育課程を目指している。卒業生、関連企業等の意見を反映するよう定期的に見直している。学生に対しても満足度を調査し講義方法の改善を行っている。		適正に運営されている。
	交換留学・インターンシップ等学外活動	活動の重要性を認識、プログラムの充実を図っていく。		新型コロナウイルスの影響により十分な活動ができなかったことはやむを得ない。今後の活動に期待する。
	教員・教員組織	常勤・非常勤講師を問わず、採用・育成の各段階における体制が整っている。年齢構成の均衡については課題が残る。		常勤・非常勤を問わないFDの実施を検討したい。
学修成果	資格・免許の取得率	資格取得者を多く輩出するためにカリキュラムや指導方法の研究も行っている。		小目標をいくつか設け、最終的に伝統工芸士の取得を目指す工夫を評価したい。長期的な目で見ていきたい。
	就職率	就職希望学生への指導は、就職		高い水準で推移していることを評価する。

		専任スタッフが個別面談を進め、学生個人の資質、適性及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践している。 それらの達成状況（就職率）は担当部署で管理されている。		進路を決定していない在学生、卒業生の指導の更なる向上を期待する。
学 生 支 援	学生相談	学生の兆候を担当が見逃さずに捉え、その都度対応している。節目ごとに個別面接を行い、進路、悩みなど聞きだし対応している。結果は指導記録にまとめ情報共有している。		留学生に対しても手厚い指導をするなどの取組みを評価する。
	保護者との連携	定期的に行っている。必要に応じて保護者に来校していただき、面接している。もっとも業務時間内の連絡が困難であったり、理解が得られない保護者が増えており、担任の負担が増している。		担当の負担が大きくなると懸念されるが、学校・学生・家庭の方向性が一致した上での指導を継続して欲しい。保護者説明会の実施などは家庭との連携関係構築に大いに資するものとする。
教 育 環 境	防災・安全管理	保険等の加入については十分であるが、それ以前の物的および人的な備えに関して、十分な対応を施していかなければならない。		適正に運営されている。
学 生 募 集	学生募集活動は、適正に行われているか	将来を意識した学生および保護者に対して、的確な情報を伝え、納得のいく進路決定を実現させたいと考える。高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。		オンラインでの説明会等、時宜に応じた取組み、工夫を評価する。
	入学選考	学生一人ひとりに対して、書類選考を行っている。また、面接等を実施し、入学後進路		オンラインでの説明会等、時宜に応じた取組み、工夫を評価する。

		変更がないように事前確認を十分行っている。□		
	学納金	多くの家庭で教育費の優先順位は高い。したがって、学費に関しては教育材料費等と負担にならない金額を設定するように心がけていく。学費納入が滞った場合の対処に苦慮している。	4	適正に運営されている。
法令の遵守	個人情報保護	各部門に管理者を配して、保護活動を図るとともに対策の実効性を高める必要がある。	4	適正に運営されている。
	学校評価	自己点検・評価報告書を全項目WEBに掲載している。学校関係者評価は職業実践専門課程の設置学校で実施し、その報告書はWEBに掲載している。	4	適正に運営されている。
	教育情報の公開	学校の概要や教育内容はWEBに掲載している。教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。	3	適正に運営されている。

5. 総括

- 1) 大学校の学生指導、教育成果、自己評価等の学校運営の取組みについて、企業、卒業生、父兄の視点から検証を行った。今年度はコロナウイルス感染症の影響により、教育課程に大幅な変更を余儀なくされた。学校運営に多大な苦勞が伴ったものと思われる。入学者を迎え卒業生を送り出し、一連の業務を終えたことを評価したい。本年度の学校運営は妥当であった。
- 2) 本年の議論のなかで、留学生の増加傾向が続き、外国人学生への対応に苦勞しているとの報告があった。外国人留学生の置かれる状況は不確定で、相当な労力を要するものと思われる。そうしたなかでも外国人学生を就職へ導いていることは、当校の教育活動の成果である。

って評価したい。グローバル化は今後も進展すると予想される。社会の変化に対応できる教育課程の開発が重要となる。課題の改善に向けた取り組みの中で反映させてほしい。

3) また、議論のなかで非常勤講師の割合が多いことが、学校運営における組織整備を困難にしているとの意見があった。委員会としては常勤、非常勤を問わずにファカルティ・ディベロップメントを実施することを手始めに組織の整備を進めていくことを提案した。

4) 議論のなかで、学内の様々な場面で、教員と学生が適切な距離を保ち、学生の特性を踏まえて指導が行われていることが見て取れた。知識の教授や技能の習得のために指導がなされることは当然であるが、加えて思考力・判断力・表現力などの育成につながるものであることが望ましい。そのためには、教職員が学生の「生きる力」をはぐくむ理念を共有し、組織的に継続して取り組む仕組みを作り上げることである。ファカルティ・ディベロップメントの実施を含めて、これからは長期的な視点からの取組みも求めている。

5) 学校関係者評価委員会としては、今後も、客観的な視点から様々な提言を投げかけることにより、当校が社会の信頼を得られるようにサポートしていきたいと考えている。